2022 4.4 vol.994

JA全農ウィークリー WEEKLY

3-5面

中期計画ならびに令和4年度事業計画のあらまし（経営企画部）

8面

全農所属 石川佳純選手が出演 新テレビCM「つながる食卓」公開（広報・調査部）

長崎街道かもめ市場に「みのりカフェ長崎駅店」オープン（6面）

生乳たっぷりの「カフェ・オレ」を4月1日に発売（7面）

新鮮なサラダを頬張り、多くの人が作り上げた「おいしさ」を幸せな笑顔で表現する石川選手（8面）

2 野口栄理事長新年度のあいさつ

6 長崎県初 長崎街道かもめ市場に「みのりカフェ長崎駅店」オープン（フードマーケット事業部）

「富山グラウジーズ“お弁当コンテスト”」に協賛（富山県本部）

7 牛乳たっぷりの「カフェ・オレ」を4月1日に発売（酪農部）

「ニッポンエール 宮崎県産日向夏ソーダ」新発売（営業開発部）

「頑張ろう東北！ 復興応援マルシェ」開催（全農東北プロジェクト）

8 JAタウンショップ紹介 タウンショップみやぎ（宮城県本部）

Web版JA全農ウィークリーはこちらから
https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定

神奈川県内酪農業 PR動画が完成（神奈川県本部）

JA直売所POP陳列甲子園を開催（神奈川県本部）

エフピコフェア2022出展（営業開発部）

『JA全農トピックス』のツイッターはこちらから

全農創立50年、次の時代を築くため挑戦し続ける全農

代表理事理事長
野口　栄

令和4年度の事業開始にあたり、ごあいさつさせていただきます。会員の皆さま、組合員の皆さまにおかれましては、本会事業につきまして格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼申しあげます。

まず、未だ収束が見えないコロナ禍の中、不安な日々をお過ごしかと思います。昨年度は消費減退により農畜産物の販売価格が低迷する一方、原油をはじめとした資材原料の世界的な需給ひっ迫などによる価格高騰が一度に押し寄せ、農家経営だけではなく、国民のくらしにも大きな影響を及ぼしました。

このような中、本会は3か年計画（元～3年度）の最終年度として、五つの最重点事業施策（①生産基盤の確立、②食のトップブランドとしての地位の確立、③元気な地域社会づくりへの支援、④海外戦略の構築、⑤JAへの支援強化）の総仕上げに取り組みました。

そして本年度から、新たな中期計画（4～6年度）が始まります。

社会や経済、生活のさまざまな領域において、目まぐるしい変化が起きており、これまでの事業の延長線上だけでは、皆さまからのご期待に応えることが難しくなっています。

30年後の2050年は国内人口が1億人を切り、高齢化はさらに進むことが予想されます。また、10年後の2030年には基幹的農業従事者が現在の約半数になると推測します。消費者の働き方やライフスタイルは変化し、コロナ禍でこの動きは加速しており、多様な販売チャネルの構築と、将来に渡り食を安定的に流通させる仕組みづくりが必要となります。そして、国内の食料消費が減る中、海外マーケットニーズを踏まえた輸出についても、さらに拡大に取り組むことが国内農業の生産基盤維持には重要です。

一方、あらゆる分野でのデジタル技術の進展、SDGsや脱炭素化など社会的な動きなど、これらにも柔軟に対応していかなければなりません。

このような情勢を踏まえ、10年後を見据えた2030年の全農グループのめざす姿を「持続可能な農業と食の提供のために〝なくてはならない全農〟であり続ける」と定めました。また、めざす姿の実現に向け、六つの全体戦略（①生産振興、②食農バリューチェーンの構築、③海外事業展開、④地域共生・地域活性化、⑤環境問題など社会課題への対応、⑥JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築）を設定しました。これらの実践に役職員が一致団結して取り組んでまいります。

最後に、3月30日に、全農は創立50周年を迎えました。経済連との統合やグループ会社の再編などを経ながら、農家組合員の経営の安定化と食の全国供給を担うべく、事業環境の変化や災害などのさまざまな局面を挑戦することで乗り越え、今日の礎を築いてまいりました。この礎のうえで、全農は今後も変わらず挑戦を続け、これからの新しい時代を皆さまと築いてまいりたいと願っています。引き続き変わらぬご指導をお願いいたします。

食と農を
未来へつなぐ

中期計画（令和4～6年度）ならびに令和4年度事業計画のあらまし

情勢認識

- 国内人口の減少・高齢化、農業就業者人口の加速度的な減少
- 耕作放棄地の拡大、1経営体あたりの耕地面積増加
- 単身世帯・共働き世帯の増加、食の簡便化ニーズの拡大
- 新型コロナウイルス感染症による生活様式・消費形態の変化
- 海外人口の増加、肥料・飼料原料などの国際的な調達競争激化
- SDGs（持続可能な開発目標）や「みどりの食料システム戦略」への対応
- 事業環境の変化や事業拡大に対応できる人材育成が必要
- JA経済事業の基盤強化が急務

既存事業の強化にとどまらず、2030年を見据えた長期的な視点に立ち、将来の変化を見据えた新たな事業を構築

2030年の全農グループのめざす姿

持続可能な農業と食の提供のために“なくてはならない全農”であり続ける

1. JAと本会が情報を共有し、一体となって生産者にベストな支援をおこなう
2. マーケットインを起点に、JAグループとしての食農バリューチェーンを構築する
3. 地域のくらしと食に貢献するとともに、環境に配慮した事業をおこなう

2030年に向けた全体戦略

1 生産振興

TAC活動の強化や革新的な技術等による生産性向上、JA出資型法人への出資など、生産基盤の維持を最重要課題として取り組みます。

2 食農バリューチェーンの構築

集荷から販売まで一貫したバリューチェーン構築と国産原料を使用した商品開発、消費者への情報発信により、食料自給率と生産者所得向上に貢献します。

3 海外事業展開

マーケットインの商品開発や実需者とのアライアンス、投資とリスク管理による輸出拡大、輸入原材料の安定調達により、海外事業の成長戦略をすすめます。

4 地域共生・地域活性化

生活インフラの整備や再生可能エネルギーの普及など、地域のくらしや自然を守り、地域経済の活性化を支援します。

5 環境問題など社会的課題への対応

環境負荷低減や地域循環農業に向けた総合的・段階的な取り組み、脱炭素化に向けた未来型の商品・技術開発をすすめます。

6 JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

多様な人材の確保や業務・事業体制の再構築、財務・投資の最適化、DX戦略の構築、ガバナンスの強化などをグループが一体となって取り組みます。

事業計画の具体策

1 生産振興

地域生産基盤の維持と事業領域の拡大に向けて、地域性や経営規模、消費者ニーズなどをふまえて、以下の視点にもとづき取り組みます。

1. 多様な労働力の確保や実践型研修農場を活用した担い手育成、畜舎賃貸事業の拡充を通じた家族経営への支援、およびJA出資型法人等への出資などによる地域の農畜産物の生産支援
2. 消費者ニーズや地域性・収益性をふまえた生産者への最適な生産提案の強化と、TAC活動などを通じた担い手経営体への対応力強化
3. 生産拡大・品質向上に資する革新的な技術・商品の開発、および子実用トウモロコシや果樹の高密植栽培などの栽培実証・普及
4. 地域の農業用施設の整備、および生産者に資材・飼料を効率的に供給するための配送体制の構築

全農チャレンジファーム広島・三原農場

2 食農バリューチェーンの構築

消費者ニーズの多様化に対応し、国産農畜産物の消費拡大をはかるため、以下の視点にもとづき取り組みます。

1. 冷凍青果物工場など農畜産物流通に必要なインフラの整備と、共同配送や統一フレキシブルコンテナの普及等による物流合理化
2. 地域や品目を横断した総合営業体制の構築と実需者への営業強化による販売拡大
3. 全農グループ会社や他企業などとの連携による、国産原材料を使用した魅力ある商品開発
4. 「JAタウン」や全農グループ直営飲食店舗などの多様な販売チャネル、情報発信の強化による国産農畜産物の消費拡大

カット野菜工場「JAベジマルファクトリー㈱」

3 海外事業展開

成長が見込まれる海外マーケットへの輸出拡大と輸入原料の安定的な確保をはかるため、以下の視点にもとづき取り組みます。

1. 海外ニーズを反映したマーケットインの取り組みや実需者とのアライアンス、積極的投資を基本戦略とする輸出事業の拡大
2. 海外原料の安定調達に向けた海外グループ会社における集荷網の拡充とサプライチェーンの強化
3. スマート農業技術等の需要開拓や日本産農畜産物の知財権保護など、海外での新たな事業機会の創出

米国での和牛販売促進に向けた展示会への参加

4 地域共生・地域活性化

農業生産基盤である地域のくらしや自然を守り、地域経済の活性化を支援するため、以下の視点にもとづき取り組みます。

1. 組合員サービスの充実に向けた、生協やファミリーマート等との企業連携、「JAでんき」やホームエネルギー事業などの新たな取り組み強化
2. 地域活性化に向けた「地産地消」のネットワークづくりやEVカーシェアリング事業の実証など、スマートシティの基盤づくり
3. 中山間地域を含めた宅配・移動購買車やSS・LPガスの供給体制などの強化による生活・エネルギーインフラの維持

㈱ファミリーマートでの青果物の販売

6 JAグループ・全農グループの最適な事業体制の構築

生産・消費・環境などの事業を取り巻く変化に対応し、課題解決をはかる最適な体制を構築するため、以下の視点にもとづき取り組みます。

1. 本会の機能発揮に必要な人材育成や人事制度の構築、コンプライアンス体制の強化
2. 全農グループ経営の強化に加え、事業競争力強化に向けたグループ再編整備や他企業との事業連携
3. JA経済事業の強化に向けた共同・広域事業の展開による事業拡大、および業務効率化をはかるシステム導入などの仕組み構築

全農パールライス㈱と岡山パールライス㈱の合併

5 環境問題など社会的課題への対応

農業における環境負荷低減や持続可能な農業の実現に貢献するため、以下の視点にもとづき取り組みます。

1. 耕畜連携や国内地域資源を活用した肥料の開発、GAP活動への支援など、地域性や実態をふまえた農業における環境負荷低減の取り組み
2. 太陽光発電所や温室効果ガスの抑制をはかる技術の開発など、脱炭素化の実現に向けた取り組み
3. 農業・食・環境の重要性を学ぶ食農教育や、持続可能な農業の確立に向けた消費者理解の醸成

耕畜連携・資源循環ブランド「3-R」のロゴと認定商品

災害などの危機管理への対応

コロナ禍で影響を受けた農業現場での労働力支援をすすめるとともに、新しい生活様式をふまえた販売展開などの対応をすすめます。

また、激甚化する自然災害、豚熱（CSF）や高病原性鳥インフルエンザなどの重要家畜疾病からの復旧・復興に向けて、引き続き被災した生産者・産地のニーズに沿った支援策を実践します。加えて、災害や家畜疾病の防止・低減に係る取り組みを強化します。

中期計画の解説動画はこちら ▼

経営計画

2030年のめざす姿の実現に向けた全体戦略の実践による事業拡大を織り込み、取扱高は4年度4兆6,000億円、5年度4兆7,000億円、6年度4兆8,000億円を計画します。

（単位:億円）

事業＼年度	4年度	5年度	6年度
米穀農産事業	6,213	6,249	6,284
園芸事業	12,080	12,420	12,760
営農・生産資材事業	8,083	8,250	8,417
畜産事業	10,725	11,027	11,329
生活関連事業	8,899	9,055	9,210
合 計	46,000	47,000	48,000

News!

長崎街道かもめ市場に「みのりカフェ長崎駅店」オープン

九州で６店舗目、長崎県では初出店

フードマーケット事業部

全農は3月18日、直営飲食店舗「みのりカフェ長崎駅店」を長崎市のJR長崎駅「長崎街道かもめ市場」にオープンしました。九州では、福岡（2店舗）・佐賀・熊本・大分に続く6店舗目で、長崎県は初出店です。

全農は、飲食店舗における「原産地表示」の意義を広く消費者に啓発し、外食産業における国産農畜産物の利用拡大を促進するため、そのモデルとなる国産食材100％（※）の飲食店舗「みのりカフェ」「みのる食堂」などを全国で運営しています。

同店では、JA長崎せいひ直売所の産直野菜や「長崎和牛」「大西海SPF豚」などを使用した食事メニュー、イチゴやビワ、カンキツなど旬の果物がたっぷり入ったパフェなど、長崎県産農畜産物の食材を生かしたメニューを提供しています。オープン以降、老若男女問わず幅広い層のお客さまが来店され、「長崎和牛を使った丼がとてもおいしい」「イチゴパフェが圧巻のサイズ！」など好評の声をいただいています。

お近くにお越しの際は、ぜひご利用ください。

店内には長崎県特産野菜をモチーフにしたステンドグラスを配置

長崎県産の果物とオリジナルミルクアイスを使用した「旬のフルーツパフェ」

※国産では代替困難なコーヒー、香辛料など、一部原材料を除きます。

News!

「富山グラウジーズ“お弁当コンテスト”」に協賛

Bリーグのホームゲームで表彰式

富山県本部

富山県本部は、Bリーグ「富山グラウジーズ」主催の「ふふっと笑顔になれるお弁当コンテスト」に協賛しました。3月6日の試合でコンテストの表彰式を行い、優秀者に富山県産農畜産物を贈りました。

コンテストは、富山グラウジーズに関連するデコレーションをしたお弁当の写真に指定のタグを付けてSNSへ投稿した人の中から、優秀者に対し県産食材をプレゼントするもので、2月7～20日の開催期間中、さまざまな趣向を凝らしたお弁当の写真が多数投稿されました。

選手の似顔絵やユニホーム、グラウジーズのマスコット「グラッキー」やグラウジーズのロゴなど多数のユニークな応募作品の中から、一般の方の「いいね」数と県本部スタッフによる審査の結果、5作品を優秀賞に選びました。

県本部が特別スポンサーとなり、3月6日に富山市総合体育館で開かれた「VS サンロッカーズ渋谷戦」では、このコンテストの表彰式を行い、中野裕司米穀園芸部長が受賞者へ富山県産アルギット米コシヒカリ10㌔、とやまポークロース肉1頭分、県産キャベツ10㌔を贈りました。

優秀賞に選ばれた弁当５作品

受賞者へ県産農畜産物を贈る中野米穀園芸部長（左）

News!

牛乳たっぷりの「カフェ・オレ」を４月１日に発売

生乳生産量がピークを迎える春に、飲んで日本の酪農を応援

酪農部

全農は、消費拡大の輪を広げる取り組みの一環として、牛乳を50％以上使用した「カフェ・オレ」を開発しました。４月１日から数量限定で発売中です。

年末年始の牛乳の消費拡大のため、牛乳を50％以上使用した「ミルクティー」を販売し、大きな反響をいただきました。生乳生産量がピークを迎える春の需要もおいしく支えたいという思いで「牛乳をたっぷり使用した」シリーズ第2弾のカフェ・オレを開発しました。

北海道産のてん菜糖を使用し、自然でやさしい甘みが牛乳のおいしさを引き立て、コーヒーのほろ苦さがアクセントとなる一品に仕上げました。

全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」内の酪農部公式ショップ「酪市酪座」をはじめ、AコープやJA直売所、New Daysの一部店舗で販売しています。

酪市酪座はこちら

商品情報はこちら

News!

「ニッポンエール 宮崎県産日向夏ソーダ」新発売

伊藤園とのニッポンエールプロジェクトで共同開発

営業開発部

全農は、農業支援の新しい取り組み「ニッポンエールプロジェクト」の製品として、「ニッポンエール 宮崎県産日向夏ソーダ」を商品開発しました。共同開発した㈱伊藤園が４月４日に発売します。

伊藤園とは、ニッポンエールプロジェクトが目指す「農業の持続性を高め、国産農作物のおいしさや品質の良さを広めていきたい」という思いを共にし、全国の特色ある農産物を使用した清涼飲料水を共同開発してきました。

日向夏の爽やかな香りと甘み、酸味の絶妙なバランスをスッキリ楽しめる炭酸飲料です。「ニッポンエール 宮崎県産日向夏」の好評を受けて開発しました。「日向夏のおいしさを全国の皆さまに知ってもらいたい」という思いとともに、この製品を通じて日向夏ファンを広げ、生果の販売拡大にもつなげていきたいと考えています。

ニッポンエールプロジェクトの専用サイトはこちら

News!

「頑張ろう東北！ 復興応援マルシェ」を開催

東北の復興と感謝の気持ち届ける

全農東北プロジェクト

全農東北プロジェクトは３月８～11日、東京・新宿にあるJA東京アグリパークで「頑張ろう東北！復興応援マルシェ」を開きました。東日本大震災から11年が経過し、東北の復興と感謝の気持ちをマルシェ会場からお届けしました。

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災は、日本国内観測史上最大規模の地震でした。海に囲まれ自然豊かな光景から一転、全てがモノクロに変わったあの時から11年が過ぎ、再び美しい東北に生まれ変わろうとしています。イベントでは被災時と現在の復興状況を写真パネルで紹介しました。また、マルシェでは旬の農産物や加工食品、大豆商品、乳製品、ニッポンエール商品など東北６県ゆかりの多くの商品を販売しました。

イベントを通じて、震災を風化させてはならないことや、未来に向かって進んできた姿を伝えました。

SCHOOL OF LOCK! TOKYO FM JFN 38 STATIONS 22:00-23:55 スクール オブ ロック!
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）毎週木曜日23:00～23:06
全農の食の応援団「虹のコンキスタドール」が農業部の部員となり
食と農の魅力を発信します!

全農所属 石川佳純選手が出演！ 新テレビCM「つながる食卓」公開

新CM「つながる食卓」

全農は3月24日、全農所属・卓球日本代表の石川佳純選手が出演する、本会の中期計画のキャッチフレーズ「食と農を未来へつなぐ。」をコンセプトにした新CM「つながる食卓」を公開しました。

【広報・調査部】

新CM「つながる食卓」は、農畜産物の生産を支える研究段階から消費者の手に届くまでに、どのように「おいしさ」が生まれ、育てられ、届けられているのかを、一直線のテーブル上で表現した内容となっており、本会の機能を視覚的に表現しました。映像にはトラクターやドローンが登場するなど、見所あふれるCMに仕上がっています。映像はワンカット撮影で行っており、食材が消費者の手元に届くまでを表現したテーブルの長さに注目です。テーブルの先で食事を待つ石川選手は、さまざまな工程の末に生まれた新鮮なサラダをほおばり、多くの人がつくりあげた「おいしさ」を幸せな笑顔で表現しています。

「全農広報部」YouTubeチャンネルではCM撮影の様子や撮影後の石川選手へのインタビュー映像を含めたメイキング動画も公開中です。ぜひご覧ください。

新CM「つながる食卓」60秒篇はこちら

メイキング映像はこちら

新CMのメイキング映像も公開中

撮影の合間に「共同購入トラクター」に乗る石川選手

JA全農のインターネットショッピングモール

JAタウン ショップ紹介

タウンショップみやぎ

宮城県で収穫量トップを誇る名取から、春の「仙台せり」をお届けします。良質な水が豊富な名取で栽培されたセリは、鮮やかな緑色に爽やかな味と香り、シャキッとした歯応えが特長です。

春のセリは冬のセリと比べると香りが強くなっているため、定番の鍋料理だけでなく、おひたしや天ぷらなどシンプルな料理にもおすすめです。レシピもお入れしますので、セリ尽くしの食卓をお楽しみください。

仙台せり 1Kg……3120円（税込み）

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会　2022年（令和4年）4月4日 発行（毎週月曜日発行）
第3390号　編集・発行人／広報・調査部　新妻成一
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03（6271）8055

休刊のお知らせ
4月11日号は休刊いたします。
次は4月18日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋
になります。